

(社)神奈川県建築士会
中支部 創立 60 周年記念誌



(社)神奈川県建築士会 中支部 平成 24 年 5 月 19 日

目次

○ はじめに	2
○ お祝いの言葉	3
○ 中支部年表(沿革)	4
○ 中支部会員の言葉	5
○ 中支部の活動	9
ナナメ塾ヒストリー 平成 14 年度～平成 18 年度	9
ナナメ塾ヒストリー 平成 19 年度～平成 21 年度	11
ナナメ塾ヒストリー 平成 21 年度～平成 22 年度	13
ナナメ塾ヒストリー 平成 23 年度～	15
○ 中支部からのお知らせ	17
ナナメ塾のご案内	17
第 10 回活動交流会中支部大会のご案内	18
中支部ホームページのご案内	19
○ 編集後記	20



○ はじめに

(社)神奈川県建築士会中支部創立 60 周年

中支部七代目支部長 澤田 晃一



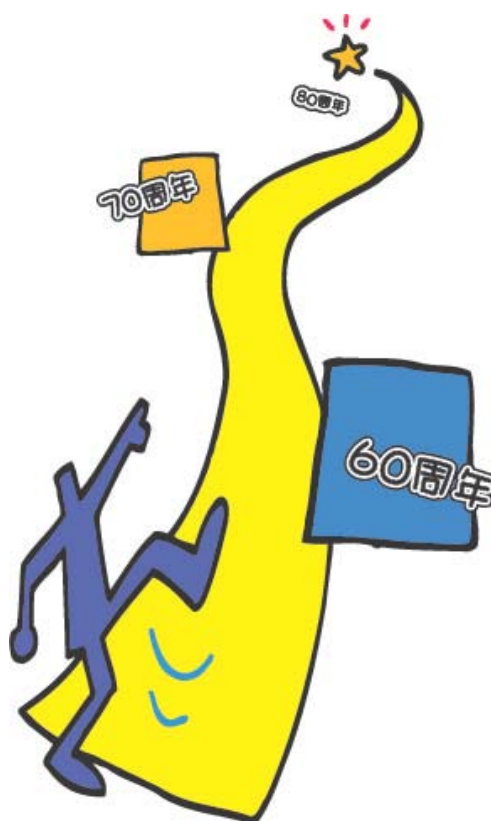
五代目田代支部長の時に開催された支部創立 50 周年から早くも 10 年たち、支部長は田代支部長から六代目松山支部長へ引き継がれ、そして私が七代目の支部長を拝命しまして、中支部創立 60 周年を迎えることとなりました。

60 年とはどれほど重い年月なのか、年齢が 60 歳に満たない自分の人生を振り返るだけでとても良く分かります。この長い、半世紀を優に超えた中支部の歴史は、先輩方による理解と協力があって創られたものです。今日まで支部運営に関わられた歴代支部長・役員そして支部会員及び関係各位に敬意を表します。

現在、社会は将来が見えない激動期にあり、誰もが方向性に悩む時代です。神奈川県建築士会でも一般社団法人化で変革があります。中支部においても様々な変革が起きてくると思われます。しかし、どのような変革が起きようとも、先輩方が 60 年間お互いの知恵と協力で中支部の歴史を創ってこられたように、私たちも支部会員と共に変革に対処し、新たな歴史を刻んでいけることと思います。

60 周年は過去から未来への通過点ですが、この通過点に皆様と立ち会えたことを幸せに思います。そして未来へ向う皆様のご健康とご発展を祈念いたします。

この記念誌が 60 周年を祝う記念誌というだけでなく、70 周年、80 周年とこれからも続く中支部の歴史の中で支部活動の道標になることを願います。



○ お祝いの言葉

建築士会中支部 創立六十周年を迎えて

(社)神奈川県建築士会
会長 花方 威之



神奈川県建築士会中支部創立60周年おめでとうございます。

ご案内のように、昭和25年に建築士法が制定され、これを受けて、昭和27年8月に社団法人神奈川県建築士会が設立されました。これに合せて、建築士会運営の基盤となるよう各地域に支部が設立されました。支部により、若干、設立時が異なりますが、中支部も同年12月に創設されたものであり、神奈川県建築士会と歴史を共にしてまいりました。これは、建築士会にとって支部活動がいかに大切なものかを物語るものです。

今、建築士会にとって、重要な課題となっているのが会員増強であり、各都道府県の単位建築士会の共通課題となっております。

法改正の折には、建築士会への加入の義務付けが話題になりますが、まだまだ難題が多く残されております。

より多くの建築士の方々に会員になっていただき、建築士会が発展していくためには、建築士相互の連帯を強めること、また、地域社会に対して、建築士の存在、役割をアピールする事が重要であると思います。

こうした役割を果たせるものが支部活動であると思っております。

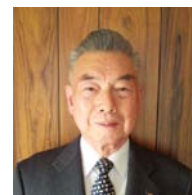
中支部におきましては、「ナナメ塾」を始め、各種の事業を通じて、地域の中で活動して頂いており、大変心強く思っております。

今後とも、支部活動を通じて、建築士会の発展に寄与していただくようお願い申し上げます。

そして、会員建築士の皆様方が益々活躍されると共に、社会への貢献を通じて、建築士の社会的地位が向上することを願って、60周年に寄せるお祝いのごことばとさせていただきます。

縁(えにし)

(社)神奈川県建築士会
相談役 齋 康夫



中支部創立60周年誠にありがとうございます。

中支部は、昭和27年に神奈川県建築士会が発足して間もなく支部を結成され、早くから建築界をリードされて来られました。

私が中支部の方々と最初に出会ったのは、昭和35年に平塚市・秦野市・伊勢原市(当時は町)の公営住宅建設に関係して現地を訪れた時でした。仕事の関係とはいえお会いした皆様は初めての私に対しても旧知のごとく接して下さり、以来、訪れる度に大変和やかな打解けた近親感を覚え今日に至っております。

このそこはかかない雰囲気醸し出している源は何なのか解らないままに居りましたところ、『ナナメ塾』の出現を見て合点がいきました。ななめ塾? きき慣れない呼び名に戸惑いましたが、設立の主旨・考えを伺い、長年私が抱いていた疑問に明解な答えを示して貰えました。しかも、『ナナメ塾』と簡潔明瞭な表現です。

私が神奈川県建築士会の専務理事を務めていたころ、多くの委員会が有ったのですが委員会間の連携が悪く同じような講習会が重複したり、委員会活動が偏ったりと、運営が混乱していました。そこで、『ナナメ塾』の考えを基軸に委員会構成の見直しを含め活動のあり方検討をお願いし、各委員会の活性化を図ってもらうことにしました。フットワークの良い青年委員会や女性委員会は委員会の殻を破って、もっと自由に各委員会に入り込んで活動できないか、また、各支部活動とも支部の独自性は維持しつつ有機的に連携できないか等など検討していただき、成案が平成15年の総会で承認されました。現在、委員会の活動は活発になり、各委員会と支部が一体となって催す『士会活動交流会』も定着したように思えます。奇しくも、この記念の年に士会活動交流会が中支部主催となるのは縁の悪戯を感じずにはられません。

これからも中支部の良き伝統を繋ぎつつ新たな発展を遂げられますよう期待しております。

○ 中支部年表(沿革)

昭和 27 年～平成 13 年

昭和 27 年 12 月 支部設立(初代支部長:吉野 秀雄)
 昭和 33 年 4 月 支部総会(2 代目支部長:成瀬 正義)
 平成 6 年 3 月 支部総会(3 代目支部長:坂田 輝興)
 平成 10 年 4 月 支部総会(4 代目支部長:佐藤 四郎)
 平成 10 年 4 月 ナナメ塾発足(初代塾頭:永田 美典)

平成 14 年

1 月 「JWCAD」勉強会
 2 月 「東京都庭園美術館&国会議事堂」見学会
 5 月 支部総会(5 代目支部長:田代 茂夫)
 5 月 ナナメ塾 2 代目塾頭:南野 英行
 5 月 ナナメ塾講座「手摺ひとつから」
 8 月 「迎賓館」見学会
 10 月 東京ディズニーランド

平成 15 年

1 月 ナナメ塾講座「地盤お助け隊」
 3 月 湯布院に学ぶ環境と共生した街づくり
 5 月 ナナメ塾講座「石井鉄工所見学」
 5 月 「民間確認機関レクチャ」&「お試し！ナナメ塾」
 11 月 支部・ナナメ塾研修旅行「酒・蕎麦・風呂」

平成 16 年

5 月 横浜建築散歩「山手洋館めぐり」
 6 月 天竜市・豊岡村研修旅行
 8 月 旧横浜ゴム記念館ペーパークラフト教室
 9 月 都市計画法四方山話
 11 月 新潟県中越地震被災地住宅相談キャラバン隊
 11 月 メイクアップインテリア
 11 月 八幡山公園模型完成

平成 17 年

2 月 浜松支部建築展研修旅行
 5 月 横浜建築散歩「横浜三塔物語」
 7 月 忍野八海・久保田一竹美術館ツアー
 8 月 モーガン邸ペーパークラフト教室&庭掃除
 10 月 ウォールクライミングとバーベキュー
 11 月 大磯宿から平塚宿

平成 18 年

2 月 建築探訪「古都鎌倉を訪ねて」
 2 月 「杉パネルの家」見学会
 5 月 横浜建築散歩「横浜美術館～銀行協会」
 6 月 関プロ山梨大会参加
 7 月 匠の技を知ろう
 9 月 秦野歴史建物散策と蕎麦打ち体験
 10 月 栃木全国大会と富広美術館
 12 月 大日堂研修会

平成 19 年

2 月 城下町再考フォーラム
 3 月 秦野古墳見学と金井酒造蔵開き
 4 月 大谷氏結婚祝い
 4 月 ナナメ塾講座「建築基準法改正懇談会」
 5 月 支部総会(6 代目支部長:松山 克己)
 5 月 ナナメ塾 3 代目塾頭:大谷 光紀
 5 月 横浜建築散歩「関内」
 8 月 新潟県中越沖地震被災地住宅相談キャラバン隊
 9 月 ナナメ塾新歓バーベキュー
 10 月 掛川研修旅行

平成 20 年

2 月 フレームキット見学会
 3 月 「鎮守の森づくり」講習会
 5 月 横浜建築散歩「馬車道」
 6 月 大岳院&秦野市内散策
 10 月 掛川研修旅行
 11 月 秦野文化財フェスティバル協力

平成 21 年

1 月 建築士会活動交流会&小田原散歩
 5 月 横浜建築散歩「山下町」
 6 月 ナナメ塾 3 代目塾頭大谷光紀氏逝去
 6 月 ナナメ塾 4 代目塾頭:田代 茂夫
 6 月 SUMIKAプロジェクト見学ツアー
 8 月 座禅体験と暑気払い
 10 月 東京ガス見学会袖ヶ浦工場・展示会
 11 月 秦野文化財フェスティバル協力
 11 月 SUMIKAプロジェクト見学ツアー
 11 月 川越視察ツアー

平成 22 年

1 月 平塚市耐震化普及講演会協力
 2 月 大谷名誉塾頭を偲ぶ会
 3 月 建築士会活動交流会
 3 月 「地盤調査を知る」合同研修会
 5 月 よこはまラーニング「TOTO ショールーム」
 8 月 地域伝統文化総合活性化事業
 11 月 秦野文化財フェスティバル協力
 11 月 ご近所再発見「山北・御殿場」

平成 23 年

2 月 閻魔大王フォーラム
 5 月 支部総会(7 代目支部長:澤田 晃一)
 5 月 ナナメ塾 5 代目塾頭:矢野 高
 5 月 よこはまラーニング「弘明寺観音と商店街」
 8 月 白瀬さん・田中さん結婚お祝いの会
 8 月 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業
 9 月 大谷邸見学会
 11 月 ご近所再発見「熱海」

○ 中支部会員の言葉

建築士会中支部創立60周年 おめでとうございます

三代目支部長
坂田 輝興



神奈川県建築士会中支部創立60周年を迎え誠に
おめでとうございます。

昭和25年に建築基準法が制定され県に建築士会が
設けられ、此の運営の為に県下に支部を結成する事
になり、昭和27年11月に横須賀支部が、同年12月に県
下2番目の支部として中支部が発足しました。(二代支
部長 成瀬正義氏 談)

私が当会に入会して40数年を経て記憶している支部
活動は昭和の時代では本部企画事業による協力・参加
型の活動や支部会員の親睦旅行等が主な事業でありま
した。

やがて時は移り、平成の時代になりコンピューターの
普及と共に世の中全体が様変わりし、この時流にそつて
役員の新旧交代が円滑に進み時代に対応出来る新路
線がスタートしました。

新体制発足により青年建築士グループが ナナメ塾
と称する活動グループを立ち上げ支部全体の先頭にな
って活躍、また本部役員や事業委員となり士会の発展
に尽力なさって居られ今日に至っています。関係の皆
様に敬意を表します。

世の中閉塞感が漂う昨今 平成23年3月11日に発生
した東日本大震災・津波の自然災害に加え原子力発電
所の事故等痛ましい出来事が続きました。

被災地では復興の妨げとなる瓦礫処理も尙ならぬ現
在、外国に拠点を移す企業も多く国内産業の空洞化ま
た少子高齢化による社会保障費確保の消費税引き上
げ等、試練の時が続く様子ではあります。

また地球温暖化防止に化石燃料から自然エネルギ
ー利用の促進がもたらされています。

原油も無く 鉄・アルミ・レアメタル等鉱物資源も無い
日本ですが知恵と努力により世界でも上位に位置する
経済大国であります。

知恵と努力を生かした会員皆様の益々のご活躍と多く
の先輩諸氏に感謝を申し上げ、明るく希望のある中支
部がさらに発展することを祈ります。

士会60周年、昭和60年



石綿 誠

建築士会中支部での建築行政の一番の変革として
は昭和60年4月からの平塚市、秦野市と小田原市の
三市が神奈川県の政策の一環として県の承諾のもと建
築基準法の特定行政庁としてスタートとし、今まで以上
に建築行政が市民の身近になりました。その際平塚市
は建築基準法の権限移譲に伴い狭隘道路整備要綱を
なお一層発展的に進化させて、4メートル未満の公道に
接している申請は要綱協議が終了するまでは確認申請
を受け付けしないこととし、道路後退用地は一定金額で
市が買い上げる制度を施行しました。この買い上げ価
格は国が毎年4月1日に公表される地価標準値価格に
より、市街化区域と市街化調整区域の各区域内の、最
低価格の1/10として市街化区域は34,000円/㎡以下、
市街化調整区域は18,000円/㎡以下の二本立ての価
格となりました。同時にスタートした小田原市、秦野市の
行政庁も買い上げ制度をスタートさせています。

この制度は本来管理者である市(国から市へ管理権
限移譲による)が道路境界を把握していることが当然で
あるはずが、そうでなかった現状を改善することにも多い
に役立ちました。この買い上げ制度は全国初の施行と
なりました。この趣旨は道路行政の一環として道路後退
用地を買い上げて市内に4m未満の道路を無くしていく
との発想がモータリゼーション時代に向けての街づくり
に対する行政の積極的姿勢だったと思います。また、制
度実施には建築士会支部への意向打診、業界と喧々
譁々に議論の末施行されましたが、現在はスッカリ定着
した画期的な制度であり、すごく社会貢献した制度であ
ったと思います。

60周年は人で言うと還暦を迎えたということで、再び元
に返ると言うことで非常にお目出度い年であると共に、
将来に向い継続は力なりの諺のとおり、これからも建築
士会、中支部の力を発揮し、なお一層の発展、成長を
祈念いたします。

中支部創立60周年を祝う

ナナメ塾初代塾頭
永田 美典



建築士会中支部結成60周年、誠におめでとうございます。

昨年の3・11、我が国は未曾有の天災を受けました。

被災地では日本特有の「絆」を基に、負けじ魂で日夜懸命に復旧・復興に向かい確実に前進されております。不況も重なり暗い長いトンネル状態ですが、必ず再建の光の兆しを信じて戦っておられます。どこまでも支援の輪を拡げ応援の継続をしていきたいと思っております。

さて、お陰様をもちまして中支部から誕生した「ナナメ塾」は、今や事業活動は県域を超え全国規模となり評価を受けられ、士会を牽引するまでの発展をされたことに対し驚きと同時に深く感謝の意を申し上げる次第であります。

思えば士会に入会間もない頃から、建設業界の異業種性を感じていた一人でした。

二十年近く前、設計・監理、生産、行政、教育等が年齢・性別を超えて一同に研鑽・友好を図れる場を造り、社会信頼向上の創造集団のもと建築文化を目指すことを意図する有志数名と発足したのが「ナナメ塾」の原点であります。

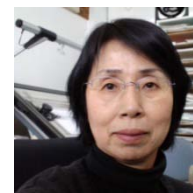
縦軸に年齢、横軸に職種を結ぶ「ナナメの線」を発想し、新しいベクトルを示すイメージをもって、とある日に「この業界の閉塞感を突破したいがどうだろうか？ やろうか？」の会話がすべての始まりでした。

この間、継続をすればするほど風あたりも強く何度も挫折を繰り返しかわや解散かの場面もありましたが、危機を乗り越えた要因のひとつには塾の原点に還るという「意識の高さ」が挙げられると思っております。

中支部皆さまにおかれましては「ナナメの絆」で創出・情報発信し、益々士会の活性及び社会信頼・貢献に寄与され、次なる目標創立70周年へ向けて邁進されんことをご期待し、結びとさせていただきます。

中支部創立60周年に当たって

中田 美和枝



私の場合建築士会会員歴はかなり長いと思います。結婚を機会に秦野市に転居して来た2～3年後に突然中支部会員の方が来られまして支部の記念品をもってきていただいて、はじめて建築士会中支部があることを知りました。しかし、参加をしたのはかなり遅く中支部内の方々が集まっての「ナナメ塾」とするところからの参加になります。各種見学会、会員の方の専門分野の勉強会、他のいろいろな異業種の方々の講習会、定例会後のコミュニケーション(自己研鑽?)など、中支部会員での活動はナナメ塾を中心に、いろいろな行事に参加させていただきました。最近では親が高齢になって時間的に活動に参加することが無理になって来まして、会費だけを納める会員になっています。

自分自身ここ数年の社会的変化、技術的進歩について行くだけでも大変な時代になりました。昨年の東日本大震災、最近の日本各地での地震又これから予測される地震での建物の有り様、少子高齢化に向かっている住まい方の変化にともなう建築の考え方、多種多様に入ってくる情報の中で建築士のもっているスキル、知識が世の中に必要となり今後益々私たちの集合体である建築士会が必要になってくると思います。これから若い建築士の方々が建築士会中支部を大いに盛りたて活用しこの未曾有の国難に立ち向かっていただきたいと思っております。日々の仕事に追われていると狭い視点になってしまいがちですが、(私自身もそのような時があります。)建築士会を通じて建築との関りを持つ事で時々ふっと顔を上げ廻りを見廻す機会を得ています。中支部がこれからも続く事をねがっています。

創立60周年おめでとうございます。

60周年に臨んで思う

齋藤 清



私がこの世に生を受けた年。昭和 27 年、戦後の日本に建築士が誕生した翌々年に中支部が誕生したのです。建築を志し学び就職した吉野建築事務所の先代社長 吉野秀雄先生が設立当初のメンバーであったこと。二代目の社長亡吉野順次師匠から、当時の中地方事務所管内(平塚・大磯・二宮・秦野・伊勢原)の戦後復興の建築と街づくりに取り組んでいた建築士が仲間を募り旗揚げしたと聞いた覚えがあります。

建築士会正会員に誰でもがなれるということではない。建築に関する実務を経験し学び「建築計画・法規・構造・施工・製図」の国家試験に合格し、登録した建築士だけに入会がゆるされる。入会したら建築士として情熱を持ち続け、先達の優れた建築を敬い学ぶ。建築に関する知識と技術の向上に努める。仲間と共に歩み次世代にこれを継承することにある。

私自身入会して、まだ 35 年たらずです。その間ナナメ塾のみなさんをはじめ諸先輩方のお影で今があり、これからあります。ドラフターとホルダー鉛筆でトレーシングペーパーに図面を引いていた時から始まり、モニターに向かってキヤドで図面を起こしている自分がある。FAXから当然のようにメールで図面をやりとりしている今がある。パソコンの設定からネットの繋ぎ方まで、困ると助けに駆けつけてくれた松山さんのおかげです。

ナナメ塾では国宝「円覚寺舍利殿」を内田さんの口利きで特別に見学させていただいた。永田さんの働きで渡辺英一さんを講師に招き、戦後「建築基準法草案作成」にまつわる講話を聞いた。中田さんの人脈で医学療法士さんからリハビリに関する実状を聞き、施設見学をさせていただいた。これらは一例にすぎませんが、すべて私の建築士としてのアイテムとなり実務に役だっています。また、たび重なる法令の改正、複雑で難易度の高くなる運用指針・規定・条例・告示・確認検査機関の民営化。そして忘れもしない「いわゆる姉歯事件」に端を発しての確認申請厳格化。どう対応していったらいいのか先の見えない不安で集まったナナメ塾の仲間。塾頭から確認検査判定員の資格を取得した南野さんの存在は、適格で実にもしく皆の不安を払拭してくれました。時代の変化に順応できるエネルギーは、若い建築士のみなさんから授かっています。それが私にとっての建築士仲間の会「中支部」です。いつまでもその一員でありたいです。私が建築士である限り。

祝 還暦

建築士会中支部創立 60 周年記念

新木 秀和



不遜ながら、私は建築士となつてすぐには建築士会に入会していません。会費を払ってまで入会する意味がないと感じたからです。ではなぜ入会したのか、それは事務所を開業する際、建築士賠償責任補償制度(けんばい)に加入したかったからです。そのためには、建築士会か、事務所協会に入会する必要があったのです。会費の安い建築士会にしました。本来の建築士会の活動目的である(建築士の品格の保持およびその業務の進歩改善、社会公共の福祉増進)ではなく、自分の福祉の部分だけを考えていたからです。乱暴な言い方ですが、他の部分は特に会に入会しなくても外から情報入手出来るので困りません。つまり自分の事しか考えていませんでした。

建築士会の社会的役割は、その活動目的そのものであるのは間違いありません。また姉歯事件に象徴される人災や、東日本大震災に代表される天災に対して建築士の力を発揮するための最大の支援機関であるべきです。

今は私も縁があつて中支部役員の末席に連なり感じたのは、実際に活動している方の超人的なボランティア精神です。建築士の士はさむらいの士と聞きました。士を辞書で引くと『特に学問・道徳などを身に備えた尊敬に値する人物』とあります。公に尽くす。まさに今の世の中で最も必要な人材集団です。その優秀な人材に支えられた組織なのです。

建築士会も中支部も 60 周年(還暦)となります。還暦とは、60 年で再び生まれた年の干支にかえるところから云うようですが、一つの人生を終えて新たに生まれ変わるという意味もあるそうです。建築士会入会の目的は本来の活動目的であるのが理想です。そのような魅力的な組織に生まれ変われるように努めることが今後の会員の使命だと考えます。またその為の人材には事欠きません。そして私もその中でいくらかの社会貢献ができれば幸いです。

中支部が大好きです



泉田 美穂

神奈川県建築士会中支部創立60周年おめでとうございます。

中支部は建築基準法が施行されて数年後に設立されたと聞いています。60年と聞いても正直、ピンときませんが基準法が施行された時代から今日までと考えると、長い年月諸先輩方が築いた功績があって今の中支部があるのだと思うと感慨深いものがあります。

ちょっと堅苦しくなっていました。ここから先は自分の言葉で書こうと思います。私は中支部が大好きです！！上手く言えませんがナナメ塾、役員会、その他色々・・・の雰囲気がとてもやさしく温かいのです。その大好きな支部の大好きな澤田支部長から一年前青年委員のお話を頂いた時「無理、無理、仕事も忙しいし第一私がそんな責任ある役割なんて出来る訳ない」と丁寧にお断りしたのです。実際この原稿の〆切すら守れず、今こうしてアセッテ書いているのです。それでも澤田支部長の熱心なススメで無事？青年委員になることが出来ました。

でもイヤな予感の中です。委員会に参加していても内容は全く分からず、人も分からずで正直言って早く終わらないかな・・・の委員会が続きました。きっかけは思い出せませんが、気付くと青年委員って楽しいな♪と思う私があります。中支部と同様に参加したいという気持ちになっています。一年前と同じく何も分からないことに変わりないのですが、私にとって青年委員会も居心地のいい場所になりつつあります。これって周りの皆さんの温かい励ましがあるからなのかな？

まだまだ支部のお役に立つことは出来ないけれど、次の70周年にはもう少し成長した私のメッセージが書けるようになっていたいものです。

中支部結成60周年を迎え



内田 幸夫

神奈川県建築士会中支部結成60周年を迎え誠におめでとうございます。

私が建築士会に入会するきっかけは、今まで仕事ばかりに集中していて、自分の視野が狭いと感じ、さまざまな勉強をしたくて入会しました。

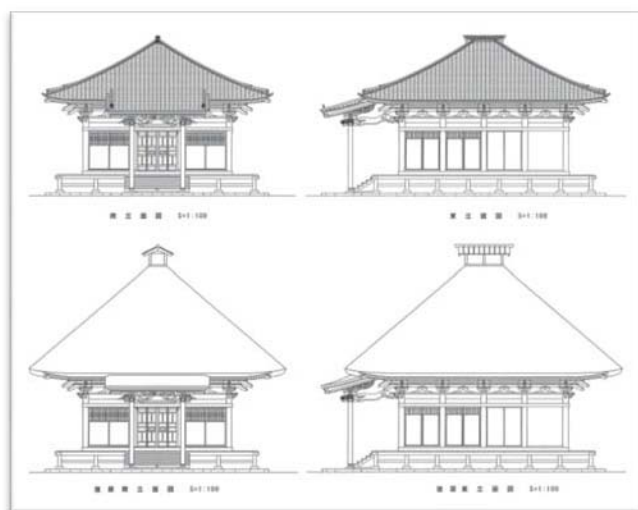
そうは言うものの、入会してから支部の事業に中々参加するきっかけができなかったのですが、ヘリマネ研修の講座で森山さんや村島さんに出会い、中支部の活動を知り、ナナメ塾に参加させていただいた次第です。

私が一番興味があったのは、大日堂の仏像修復部会の活動についてでした。仕事柄、文化財の修復現場で得た知識が少しでも生かせるのではないかと思ったのであります。

文化庁の助成事業を軸にしての大日堂の調査や報告書の作成は、大変有意義なものでした。

また、建築士会を通じて沢山の人の出会いがあり、人と人の繋がりを深められたことにも感謝しております。

今後の皆様のご活躍とご繁栄を心より祈念いたします。



文化庁事業にて作成した大日堂現況図・復原図

○ 中支部の活動

ナナメ塾ヒストリー 平成 14 年度～平成 18 年度

筆者 矢野 高

二代目塾頭 南野 英行

2002年、ナナメ塾の二代目塾頭として南野英行氏が就任した。当時まだ40代前半の若い塾頭は、ナナメ塾の存在を神奈川士会全体、さらに関東甲信越ブロックへ…と幅広くアピールした。

2003年の関ブロ千葉大会では、志村満春氏の弁でその活動を発表させていただく機会を得た。これは1997年の関ブロ神奈川大会が由来となったナナメ塾の、大きな足跡となった。また、他支部や他県士会とのコラボレーションが活発に行なわれるようになったのもこの頃からであり、そして、現在の「よこはまラーニング」の前身、「YOKOHAMA 建築散歩」も南野塾頭の時代に生まれたものである。

■2003.5.24(土)

「民間確認機関&お試し！ナナメ塾(青年委主催)」

中支部エリア初開業の民間確認機関「㈱湘南建築センター」大津氏をゲストに迎え、レクチャー・懇談を開催。後半は青年委員会とのコラボイベントで「お試し！ナナメ塾」と題し出張開塾した。

関ブロ千葉大会の活動発表文もお披露目となった。



(ついに平塚にも民間機関が。その後も何かとお世話に…)

■2003.11.15(土)

支部・ナナメ塾研修旅行

「長野県諏訪方面～酒・そば・風呂～」

前年の日光の研修に続き他県士会との交流第2弾。関ブロ千葉大会がきっかけで、長野県建築士会諏訪支部のご協力で開催。好天の中、酒・そばを堪能し、工芸作品を見学後片倉館へ。入浴後同支部の方々と交流、有意義なひと時を過ごした。



(「酒・そば・風呂」のテーマは一時期支部の流行語にも!?)

■2004.5.27(木)

「YOKOHAMA 建築散歩～山手地区～」

本会総会へのいざないとして始まったイベント「YOKOHAMA 建築散歩」。初回は横浜地方気象台と山手地区の洋館建築群を訪れた。初夏の爽やかな陽気の中、有意義な見学が出来た。



(初夏を思わせる陽気の中、初の「建築散歩」が行なわれた)

■2004.6.24(土)

支部・ナナメ塾研修旅行

「藤森照信と安藤忠雄の世界」

巨匠の作品を見学に静岡西部へ。秋野不矩美術館(藤森)・ロックフィールド静岡ファクトリーと豊岡村(現磐田市)立豊岡中学体育館(安藤)を見学。懇親会は「花の舞酒蔵」を訪れ盛況を呈した。



(参加者は県内各地よりあり、高く評価をいただいたイベント)

■2004.8.25(水)

「旧横浜ゴム記念館ペーパークラフト教室」

平塚市勤労会館大会議室にて、平塚市内の小学生を中心に講師を含め26名が参加し開催。皆さんの熱心さには驚き。予定時刻にはほぼ全員完成。

夏休みの思い出作りのお手伝いが出来た。



(子供たちに囲まれ真ん中に立つのは若かりし頃の現塾頭。)

■2005.2.11(土)

「浜松歴史建築との出会い」

他県士会との交流第3弾は静岡県建築士会浜松支部主催の建築展に参加。旧浜松銀行協会・浜松城や周辺の建築群を見学し懇親会では同支部会員の皆様と交流。浜松市教育委員会の内藤氏にお世話になったほか、2003年の「環境共生セミナー」以来の静岡県職員・溝口氏との再会のひとコマも。



(「食」も研修旅行の楽しみ。浜松といえばやっぱり…ですね！)

■2006.2.19(日)

「杉パネルの家」見学会

～ 技術支援委員会環境部会・女性委員会実践住まい塾 共催 ～
秦野戸川公園パークセンターにて快適な木造住宅を多数手がけた建築家を講師に迎え設計手法を伺い、近隣にある実際の住宅を見学した。



(寒さを吹き飛ばす熱気に溢れた見学会であった)

■2007.2.25(土)

「城下町小田原再考フォーラム」～小田原地方支部 共催～

小田原地方支部との共催として実現した企画で、横浜や県央・湘南支部、他県士会からも参加者があり30名超の盛況。市役所職員の方から丁寧な解説を聴くことができ、散策後の懇親会では今後も支部間の協力関係を継続していくことも確認され盛会のうちに終了した。



(近隣の支部とのコラボも大切である。)

サイドメモ この時期に産声を挙げた活動は現在でも受け継がれており、中支部の重要なコンテンツとなっている。

「YOKOHAMA 建築散歩」の軌跡

建築士会総会への誘いとして総会開催日の午前中に開催してきた「YOKOHAMA 建築散歩」はその後2005年の「三塔編」と称し開港記念館・県庁・税関を中心に、2006年は横浜美術館の「イサム・ノグチ展」と旧横浜銀行(横浜アイランドタワー)等を巡った。その後毎年の恒例行事として続いていたが2009年の～アール・デコの時代～「山下町編」を最後に一旦幕を引き、翌年から横浜の建築とまちづくりを多彩な角度から学ぶ「よこはまラーニング」へ発展することとなった。

きっかけはここから「みのげ・大日堂」

2006年12月、ナナメ塾では秦野市蓑毛「大日堂」を訪れた。貴重な仏像群に感心するも大日堂本堂の劣化状況など看過できない部分もあり、保存・修復、尚且つ蓑毛地区の活性化へつなげる模索を始める契機となった。早速仏像群の希少性をPRするポスターを田中敦史氏の手で作成・掲示。その後、秋の「文化財特別公開」への協力、「みのげ文化の会」発足、文化庁の「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」(旧「地域伝統文化総合活性化事業」)への選定、と歩を進めていく。

ナナメ塾ヒストリー 平成 19 年度～平成 21 年度

「大谷光紀塾頭の思い出」

筆者 松山 克己



名誉塾頭 大谷 光紀

■別れ

その日は何の用事があったのか忘れてしまったけれど、朝から電話を掛け続けていました。全然電話に出ないので半分諦めたところへ【大谷光紀】から電話が掛かってきました。「なんだいたのか」と思いながら電話にでると、奥様の美和さんが半分泣きながら「驚かないで聞いてくださいね」とおっしゃる。美和さんがその先何を言うのか想像はできたが、まったく信じられないことでした。このような電話で嘘や冗談だった例はない。取り急ぎ金子副支部長とともに、ご実家に伺い、痛々しい姿で横たわる大谷君と対面することになりました。伊豆の河津にて、趣味のハンググライダーの着地時に事故になり、ドクターヘリで運ばれたが、38歳という若さで短い生涯を閉じてしまった。ご両親が気丈に対応されていたが、悲しみはとてつもなく大きかったに違いない。

2009年6月2日のことであります。3日通夜、4日告別式と葬儀が行われ、両日にわたり大変多くの方が参列しているのを見て、周囲のみなさんに親しまれていた好青年だったと改めて認識しました。また、私の知っている建築士やお父様の芍薬栽培のお手伝いをしている顔以外にもさまざまな活動をして多くの人達と交流があり、そのことが大谷君の魅力となっていたのだと感じました。またそれが、ご家族皆様の誇りでもあったようで、告別式の中でお父様のお話を聞いていて、涙が止まりませんでした。

秋には忘れ形見の千晶ちゃんが誕生し、元気に成長しています。また昨年には生前、設計を手掛けていた自宅のリノベーションが、遺志を受け継いだ人々の手により完成しました。旧宅の雰囲気を残しつつ、耐震性・温熱環境に配慮し、またガラス作家である妹さんの作品が随所に使用された、気持ちのよい空間となっています。千晶ちゃんを中心に末永く家族が集うことでしょう。また、秦野市蓑毛の大日堂の境内を芍薬でいっぱいになりたいという大谷君の夢の実現のために、お父様にご指導ご協力を願い、一昨年にみのげ文化の会の環境整備部会とともに、芍薬の植え付けを行いました。昨年の5月から6月にかけて芍薬の花を咲かせることができ、大日堂を訪れた皆さんに楽しんでもらうことができました。今年も順調に芽が出ていますので、これからが楽しみです。今後も植え付け場所を増やし、大日堂が芍薬の名所となる日が来れば天国の大谷君もきっと喜んでくれるはずです。

芍薬は現在9種類が植えられていますが、その中に千秋(せんしゅう)という品種もあります。お父様が「読み方によっては【ちあき】とも読める」とおっしゃって、嬉しそうにお孫さんの千晶ちゃんに重ね合わせていて、大変微笑ましく感じました。

芍薬の里作りにとどまらず、大日堂に思いを馳せていた大谷君の夢を、いつまでも私たちは共有していきたいと考えています。

■出会いから塾頭へ

平成16年10月23日新潟県中越地震により、大きな被害が発生しました。建築士会では11月中旬に、被災地住宅相談キャラバン隊として各支部から現地に向かいました。中支部からは5名を派遣し、11月14・15日に相談業務にあたりました。

3名ずつに班分けした時、寒川から一人で来ていた大谷君と中支部の2名とで班を作ったことが、最初の出会いでした。後日建築士会事務局に聞いたところ、「会員ではないが、建築士として何かお手伝いできますか?」と、真っ先に電話を掛けてきたそうです。大谷君の人柄が偲べれます。

1日目の業務が終わり、一緒に夕飯を食べながら建築士会への入会をお勧めし、一緒に活動しましょうとお誘いしました。帰宅後に、早速入会していただき、中支部会員としての活動が始まりました。

支部事業・ナナメ塾事業に積極的に参加され、平成18年度の総会では、支部役員となり、平成19年4月に美和さんと結婚。それを機にさらに意欲的に挑戦する決意で、前塾頭の急なお願いにもかかわらず、快く3代目塾頭に就任されました。

塾頭としてわずか2年という短い期間ではありますが、その間の事業の紹介を致します。

■2007.6.16

「関ブロ神奈川大会」 神奈川大学

■2007.8.1

「中越沖地震 被災地住宅相談」 新潟県柏崎市

■2007.9.2

ナナム塾新人歓迎バーベキュー 秦野市田代邸

■2007.10.27

ねむの木学園と横須賀街道ちっちゃな文化展



台風の影響による雨の中、ねむの木美術館・遠州横須賀街道ちっちゃな文化展・掛川市役所の視察を行いました。ねむの木美術館では建物だけでなく、展示されている絵のすばらしさに感動し、横須賀街道では雨の中皆さん熱心に見学されていました。

■2008.3.22

鎮守の森づくり講習会 秦野市出雲大社



■2008.6.28

大岳院と秦野市内視察 秦野駅周辺



■2008.10.25

掛川城と横須賀街道ちっちゃな文化展 掛川市

■2008.11.1~4

秦野市文化財フェスティバル 秦野市葦毛

■2009.1.31

小田原城下町建築散歩 建築士会交流会併催企画

■2007.5.30 YOKOHAMA 建築散歩 16名
開港～近代

■2008.5.29 YOKOHAMA 建築散歩 21名
～馬車道編～

■2009.5.28 YOKOHAMA 建築散歩 11名
～アール・デコの時代～「山下町編」



フランス橋を起点にリニューアルから一年経った「氷川丸」と横浜の顔とも言えるクラシックホテルの名門「ホテルニューグランド」の見学をメインに海岸通りと山下町に点在するレンガ建築などを散策しました。

これが大谷塾頭としての最後の事業になり、5日後に永遠のお別れをすることになるとは、誰ひとり想像できませんでした。

ご冥福をお祈りいたします。

ナナム塾ヒストリー 平成 21 年度～平成 22 年度



四代目塾頭 田代 茂夫

建築士会中支部60周年に向けて

2009年5月「YOKOHAMA建築散歩」の実施に向けて塾生の意見調整に一生懸命だった大谷元塾頭でした。6月2日突然の訃報のお知らせメールに大きなショックを受けたのは私だけではなかったと思います。あまりの急逝に後継が決まらず、私が引き継ぐことになりました。

もともとナナム塾は若い会員が自分のやりたい活動を自由にできる場として存在してきました。私の任期中を振り返りますと、塾頭の役目を全うしたとは言えない自分がいたのに気が付かされます。しかし、回りの皆さんが前向きに事業をすすめてくれましたので本当に助かりました。

私が塾頭をお受けしたのは2009年6月でしたが、計画されていたYOKOHAMA建築散歩は予定通り実施され、8月に座禅会、暑気払い、東京ガス袖ヶ浦工場見学会、川越視察ツアーを開催しました。そして2010年には「YOKOHAMA建築散歩」が「よこはまラーニング」通称「はまラー」と名称を変え新しくスタートしました。同年には住空間を考えるセミナー、山北御殿場視察ツアーなどの建築士らしい事業の他に大谷塾頭を偲ぶ会も実施されました。これらの事業はほとんど塾生主導で企画運営され、ナナム塾のあるべき姿だったのではないかと思います。そんななかで私が関わりを持った事業が意外な広がりを見せたことを振り返ってみました。

私の地域、蓑毛に眠っていた歴史文化遺産、大日堂の保存活動に関わり始めた頃、大谷元塾頭や塾生が関わり、ナナム塾の活動として協力をしてくれましたが、大変うれしいことでした。そんな活動が縁となり、平成22年度文化庁の「地域伝統文化活性化事業」に選定をされ、支部活動へと発展をしたことにより、さらにはずみがつきました。とは言え修復には膨大な費用が必要となり、私たちの活動は周辺整備や保存への啓蒙活動、勉強会が中心になります。

大谷氏が元気で活動をしている頃「この境内を芍薬でいっぱいにしたい、そうすれば大勢の人が見に来てくれる」と語った夢を実現することにしました。大谷氏の寒川にある実家は大きな芍薬園を経営されていることもあり、お父様や奥様が喜んで協力をしてくださりました。約30株の苗を無償で提供してくださいました。また大日堂へも足を運んでいただき、お父様のご指導のもとにうえつけをしました。そして23年春、見事な花をつけました。そして地域活性化事業のまとめとして平成23年2月26日、「閻魔大王フォーラム」の開催に至るのです。

2年目には中支部メンバーにより大日堂の細かい調査を実施し、修復費用の算定を主とした報告書が完成し、文化庁へ提出するに至りました。地域伝統文化活性化事業は2011年度で修了します。

ひとつの小さな活動がナナム塾を通じて発展していった例で、こういったことは希かも知れませんが、ナナム塾の重要性を感じています。大日堂はこれからが本当の保存活動になっていくでしょう。しかし、ナナム塾は自由に提案し、それを実現していく組織だと思っています。

これからまた新しい事業への取り組みも増えていくこととなるでしょう。中支部にはまだまだ多くの支部会員がおられます。そう言った会員の方々がナナム塾に理解をしていただき、参画をし、この塾がもっともっと充実した組織になってくれることを願っております。

■2009.8.23(木)

「座禅の会・暑気払い」

蓑毛地区の活動の一環として「愚閑禅道場」に座禅を体験に訪れた。厳格なイメージがある座禅だが、ここはリラックスして向き合うという道場。住職は元警察官、総持寺で修行の後 2004 年に道場を開設。禅の後は私の事務所の庭にて塾生と BBQ で暑気払いを楽しみ、去り行く夏を惜しんだ。



(外観は普通の住まい/1号はいずこに?)

■2009.10.22(木)

東京ガス袖ヶ浦工場と「暮らしのデザイン展'09」

東京ガス(株)のご好意で千葉・袖ヶ浦にある同社工場と長南町にある「笠森観音」、横浜で開催中の「暮らしのデザイン展'09」を巡る研修旅行を実施。世界最大のLNG受入基地である工場の偉容に一同驚嘆した。



(東京ガス袖ヶ浦工場にて※左写真は県央支部大島氏撮影)

■2009.11.14(土)

「蔵づくりの街・小江戸川越」視察ツアー



(圏央道のお陰で埼玉方面もアクセスが良くなった。)

秋季恒例の支部・ナナム塾研修旅行は江戸明治期から続く蔵造の商家をはじめそのランドマークである「時の鐘」、そして五百羅漢で有名な徳川家縁の喜多院と歴史ある建築群の宝庫川越市、北接する川島町にある遠山美術館など埼玉県央地区を訪れた。

■2010.2.11(木)

「大谷塾頭を偲ぶ会」秦野・レストランやなぎ家

塾生や有志が集い、氏の思い出話に花を咲かせた。

■2010.3.20(土)「地盤調査を知る」

(社)神奈川県建築士事務所協会中ブロックとの共催による勉強会。建築物とは切れない縁の「地盤」優良調査業者の選び方、調査報告書の読み方、最適な改良方法はどれか…?等の疑問に専門家の目線で答えていただいた他、注目の新工法の紹介など、限られた時間内でわかりやすい説明をいただいた。終了後は中ブロックと合同で懇親会を開催。学んだことがお酒で忘れてしまわぬか心配になるほど盛況の宴席であった。

■2010.5.27(木)

新装開店「よこはまラーニング」第1弾

「YOKOHAMA 建築散歩」から、「よこはまラーニング」に刷新した第1回は横浜ランドマークタワー34階のTOTO ショールームにてセミナー及び見学会開催。

同社横浜支社市場開発課の講演を拝聴。豊富な施工例の紹介。続いて省エネや環境配慮型水廻り機器の技術的解説。最後に最新 TOTO 製品の見学。



(ロケーションも素晴らしく、第一回に相応しい)

■2010.11.6(土)

「ご近所再発見！足柄・御殿場界隈の街並みと名建築をめぐる」

秋季恒例の支部・ナナム塾研修旅行、本年は地元周辺に着目。東海道線時代の栄華の面影がある山北駅周辺の街並、小山町にある富士紡績(フジボウ)初代社長・和田豊治氏の私邸を出自とする「豊門会館」。御殿場の「旧岸邸」(吉田五十八)、「とらや工房」(内藤廣)、1327年(享保8年)築で現存する「秩父宮記念公園記念館」と足柄・静岡県駿東地区の名建築群を見学。最後に富士山を一望する「美華ガーデン」を経由、「御殿場高原ビール」にて懇親会の後帰途についた。



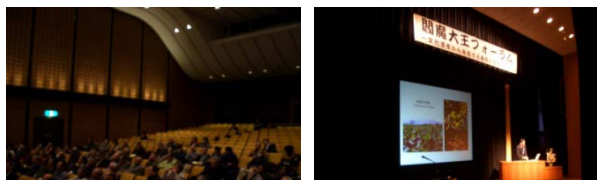
■2011.2.26(土) 秦野市文化会館

「閻魔大王フォーラム

～文化遺産から発信する秦野のまちづくり～」

文化庁「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」(旧「地域伝統文化総合活性化事業」)の一年目の最後に開催したシンポジウム。

当日は以前にもお世話になった静岡県庁の溝口久氏による基調講演、そして東海大学観光学部の松本学部長による蓑毛地区の歴史に関する講演、そして同大建築学科の加藤教授をコーディネーターに迎え、パネルディスカッションが展開された。建築士会会員の方々も遠方からも含め多数の方にお越し頂いた。



ナナメ塾ヒストリー 平成 23 年度～

五代目塾頭 矢野 高



2011年も明けて間もない頃、田代前塾頭より、「ナナメ塾の塾頭を引き継いで欲しい」とのお話をいただき、正直、私に務まるか不安であった。ナナメ塾の活動に参加した当時の二代目塾頭・南野氏の活躍や、その後の大谷氏、田代氏の活躍を拝見し、その思いが強かったのだが、これまで築き上げられたナナメ塾の歴史を引き継がせていただけるのであれば、自己の研鑽にもなると考え、僭越ながら拝命させていただいた。毎回貴重な時間を割き定例会や活動に参加して下さる皆様、先輩塾頭、支部長や支部役員の皆様の忌憚無いご指導ご助言が励みであり糧である。皆様にお礼申し上げますと共に、今後もナナメ塾の活動を見守って頂ければ幸甚である。それでは、皆様に支えられながら歩んできたこの1年間を振り返ってみたい。

■2011.5.23(月)

「よこはまラーニング」第2弾

「横濱下町探訪・われら弘明寺探検隊！」



(塾頭として臨んだ初イベント、緊張の連続であった)

毎年春恒例の「よこはまラーニング」では弘明寺観音(南区)境内とかつて東洋一を謳ったアーケードを有し、昭和の趣と活気ある街並みを訪ねた。弘明寺では多数の国指定重文や横浜市指定有形文化財の仏像群に囲まれた中、お坊さんの熱意ある建物・仏像に関する解説を拝聴、その後、上記の通りの威容を誇るアーケードへ。「シャッター通り」という言葉とは無縁の商店街にはまちづくりの原点が息づいていた。

■2011.9.10(土)

「先々代ナナメ塾塾頭・大谷邸見学会」



三代目ナナメ塾塾頭であった故・大谷光紀氏が、生前設計していた自宅の改修が、遺志を受け継いだ有志の手により完成しご好意で見学に。共同設計者の樫さんの弁を借りると自然の通風や光の有効利用、耐震性の向上を図り、築53年の古民家は見事にアップデートされた。また随所をガラス作家の大谷氏の妹さんの作品が彩る。氏の建築や住まいへの思いに触れる機会を得た。かえすがえす、氏のような青年建築士が早々とこの世から旅立ってしまったことが惜まれる。



(奥様、ご家族を囲んで皆さんで記念撮影。右上が共同設計者)

■2011.10.13(木)

「新素材を知る～地球から住まいへの贈りもの～」

今日、「環境性能」や「エコ」を謳った材料は多数あるが、ホタテの貝殻をリサイクルし、消臭、VOC 吸着、防カビ効果に優れた左官材「ホタテ健康壁」等を、榊ゼン・ハーモニックの高田滋氏よりご紹介頂いた。氏の丁寧な解説と実演に参加者全員熱心に見聞き入りした。勉強会の後は懇親の場。高田氏、独立前は横須賀勤務、大学は藤沢と以前から神奈川とは縁があったという。講師との懇親の場を設けたことは参加者からも好評であった。



(講師・高田氏には遠路よりお越しいただいた)

■2011.11.19(土)

「ご近所再発見！熱海をめぐる」視察ツアー

秋季恒例の支部・ナナム塾研修旅行、昨年度の山北・御殿場に続いて熱海を訪れた。今回はバスを利用せずに、現地集合解散という形は初の試み。

はじめに熱海駅からほど近いブルーノ・タウト設計の重要文化財「旧日向別邸」地下室を見学。



(近隣にこのような文化遺産が点在することは幸運である)

和の素材の活かし方、空間から眺望まで配慮された計画は、タウトは単なる親日家ではなく在日時はあくまでも日本の建築家として生きたのではないかと思わせる。昼食後はボランティアガイドの案内で、海辺の別荘地を見学。石畳の道や街並みは瀟灑な趣があった。その後大正代築の「熱海の3大別荘」が基の起雲閣へ。文豪たちの定宿として名をはせ、2000年市指定文化財に。どれも素晴らしい内容故、大雨に見舞われたのが惜しまれた。

文化庁「平成 23 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」 2011.8～2012.3(通年活動)

昨年の「地域伝統文化総合活性化事業」では大日堂及び蓑毛地区についての概要、「みのげ文化の会」の発足までの経緯、資料作成時までの活動報告、共に活動する関連団体の紹介についてを一つの冊子にまとめたが、本年は事業名も「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」に変わり、私たちの活動もそれに呼応する形となり、本年の報告書では大日堂を軸足に蓑毛地区の活性化、地域文化の醸成による将来像の在り方の考察、具体的な建物改修工事の計画策定及び提案、そして2年にわたり活動してきた有志がそれぞれに思い描く蓑毛の将来像を語り有終の美を飾った。

「みのげ文化の会」としては、毎月第一日曜日早朝の座禅会、金剛水周辺の植栽整備、ボランティアガイド育成勉強会などが新たに加わった活動である。

この他毎年継続の秋の「文化財特別公開」への協力や「みのげ文化の会仏像建物修復部会」としての活動も相変わらず活発に展開している。



編集会議のひとコマ。

真摯な議論を重ね、一冊の結晶となった。

○ 中支部からのお知らせ

ナナメ塾のご案内

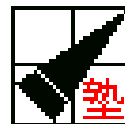
～「ナナメ塾」とは？～

今、中支部といえば真先に「ナナメ塾」を思い浮かべる方も少なくありません。しかし、その起源をご存知の方はどれくらいいらっしゃるでしょうか。この機会にお話ししましょう。

1997(平成9)年、関ブロ神奈川大会に参加し、他県の青年建築士の活動に感銘を受け、中支部の当時の青年建築士を中心にそれまでの「青年・女性サークル」を母体に旗揚げした組織、それが「ナナメ塾」です。

「ナナメ塾」の名は、初代永田塾頭の提唱による「職種・性別」という横軸と、「地域・年齢」という縦軸、その両軸を有機的に結ぶ斜め(ナナメ)軸という概念にプラスし、吉田松陰の「松下村塾」などに代表される「塾」という組織の知的さ、熱意、自由闊達な空気に憧憬、敬意を表して授けたものです。その後一年弱の準備期間を経て翌1998年4月17日に正式に開塾し現在に至ります。

今まで5人の塾頭がその思いを尊重しながら、襷を繋いでまいりました。おかげさまで来年、2013(平成25)年「ナナメ塾」は開塾15周年を迎えます。これまで活動に参加いただいた方、歴代塾頭の皆様、支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。



～「ナナメ塾」の活動は？～

「ナナメ塾」は建築業界内での異職種の親睦交流、情報交換の場として塾生はゼネコン、地場工務店、建築士事務所主宰者、行政職、など多士済々な方々が参加しております。基本的にはそういった社会的立場や世代の概念に囚われず、各人の自由意志を尊重し、学び、遊び、語らいを通して自らを高め、今様の言葉で云えば「絆」を深める場として機能しています。

ナナメ塾の定期的な活動としては、現在、毎月第二木曜日、19:00より平塚・濱田氏事務所(場所は変更になる場合もあります)にて、定例会を開催しているほか、毎年5月下旬、建築士会通常総会開催日に「よこはまラーニング(通称“はまラー”)(旧「YOKOHAMA建築散歩」)の開催。また、毎年秋開催の中支部研修旅行においてもPRや企画の面で協力しております。その他、不定期に勉強会、見学会、などを随時企画、開催しております。参加資格は「神奈川県建築士会会員である」、この1点のみです。参加をお待ちしております。

本誌では中支部創立50周年の2002(平成14)年から10年間のナナメ塾の足跡を、「ナナメ塾ヒストリー」と題し、この間の歴代塾頭の活動記録という形で回顧してまいりました。これまで一度でもナナメ塾の活動に参加された方は当時の思い出と共に、そうでないという方はこの機会にナナメ塾の活動の様子をご覧ください、そして是非また足をお運びいただければ幸甚です。

五代目塾頭 矢野 高



第 10 回活動交流会中支部大会のご案内

年代は不肖だが、聞くところによれば、「活動交流会」、最初は女性会員の繋がりのための「お茶会」が始めだったようです。そして、男性会員も加わってきて、「交流会」という名の、委員会・部会への会員勧誘の場だったようです。

勧誘の為に、報告・発表が行われ、青年委員会が関ブロに出場するための(本会での)「選考会(第2～4回)」を兼ねるようになっていたようです。中支部も「ナナメ塾」の活動を報告していますので、記憶にある方もあるのではないのでしょうか。

第5回(防災を考える)からは「テーマ」を決めて行っており、更に、第6回は小田原(地域再生)で開催され、以降、各支部での持ち回り開催となっています。小田原のあとは県庁職域(残したい伝えたい～歴史的建造物を後世に～)・川崎(景観シンポジウム～ここに残るかわさきの風景～)・相模原(ヴァナキュラー建築から未来の住まい方)と続き、中支部では支部創立60周年を記念して、第10回大会に手をあげ、取り組んでいます。

さて、中支部で行われる大会のテーマは「身近な課題」や「自身の事」をちょっと考えてみませんかと考え、「高齢化社会に求められる建築とは、建築士の資質とは？」と定めて、平成25年2月の開催に向け検討・準備を行っております。

2018年をピークに神奈川県の人人口も減少していきます。

中支部では10年ほど前に、厚木の老健施設の見学を行っていて理学療法士・理学作業士さん達のお話を聞きました。高齢化社会に直面し、中支部管内にも高齢者を対象とした施設がどんどん建設されています。高齢者のためのケアハウス・住宅型有料老人ホーム・グループホーム・養護老人ホーム・特別養護老人ホーム・健康型有料老人ホーム・高齢者賃貸住宅・在宅介護の住宅などなど多々あります。

過去・現在・未来と私たち建築士に求められる資質は変化しています。求められる建物要素も変わってきています。こらからの福祉社会の仕組・運営はどう変わるのか？現状はどうなのか？

それぞれの分野の第一線で活躍している方々の生の声や実体験からその時、建築に何を求めているのか、発表していただき、更にパネルディスカッションを行って、建築士の資質の向上に役立てられるものを探りだす。

と、更に検討を進めています。これだったらこんなのはどうだろうとか、ご意見・希望等ありましたら、土井・泉田までお願いします。そして、大会当日には奮って参加していただき、盛り上げて頂きたいと願っています。

活動交流会担当 土井 幹夫・泉田 美穂



小田原での活動交流会



川崎での活動交流会



今年2月に開催された
相模原での活動交流会

中支部ホームページのご案内

現在、中支部のホームページを以下 URL にて公開しております。

ホームページ内では、中支部やナナメ塾の活動報告や参加者の募集を行っています。「よこはまラーニング」の詳細情報や参加者募集等のインフォメーションもこちらからご覧いただけます。

中支部に在籍しながらまだ活動に参加した事の無い方、これから参加を考えている方、とりあえず中支部ってどんな雰囲気なのか知りたい方、色々な方からのアクセスをお待ちしています。



http://www.kanagawa-kentikusikai.com/sibu/naka/

○ 編集後記

中支部及びナナメ塾に思う事



金子 孝

建築士会の役員を仰せつかった時は46歳の時でした。それからいつの間にか14年も経ち60歳を迎える事になりました。中支部と同一年です。

10年前の創立50周年記念事業では会計の役で、皆さんと共に任にあたった事が昨日のように思えます。

あれから10年、内外でさまざまな出来事がありました。悲しいそして痛ましい事が多かったと思います。自然の驚異や資本主義、社会制度の行き詰まり等を目の当たりにし、価値観を変えていく人も多かったのではないのでしょうか？当然、建築士の社会に対しての責任や期待は以前にもまして重くなったように感じます。

中支部及びナナメ塾にも力を発揮できる時がこれからたくさんある事でしょう。中支部及びナナメ塾にはこれらを実行できる力があります。これはメンバー全員が精力的で、信頼関係が厚く、協調心をもって事にあたって実績を積んだ成果に他なりません。ナナメ塾の精神である自由な発想で、上下関係をなくし協力的な環境を持続させれば、ますます発展する事は間違いありません。

今後もナナメ塾の精神を忘れず、社会的に役立つことに繋がっていくようないろいろな事に挑戦し実行して行く事を心から願います。

今般、60周年記念事業を田中さんと担当する事になり、記念誌も任される事になりました。本記念誌は過去10年の中支部・ナナメ塾の活動を中心に紹介するという趣旨で作成し始めましたが、その当初の目的以上に皆さんの中支部とナナメ塾への熱い思いや期待などが感じられる投稿が多かったと感じました。

最後に本記念誌を発行するにあたり多くの方々からご意見、ご協力、そしてご支援をいただきました。

この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

次の10年への第一歩



田中 敦史

私が中支部の活動に参加するようになったのは、2004年のナナメ塾で実施された「旧横浜ゴム記念館パーパークラフト教室」がきっかけでした。それまで勤めていたハウスメーカーを退職し、地元で一人で事務所を始めはしたものの、周囲に知り合いの事務所や工務店がいるはずも無い状況の中で、仲間探しの目的から建築士会のホームページでたまたま見つけたナナメ塾の募集記事からメールで問い合わせました。もともと人見知りな一面もある私ですが、そこで出会った人たちはとてもフレンドリーで、陽気な人が多かったと言う印象を覚えています。

こうして参加するようになった中支部の活動ですが、そこに居た諸先輩方の人柄があったからこそ、まだわずか8年ですが継続できたように思います。

この8年間の間に中支部のホームページリニューアルを担当し、その後神奈川県建築士会本会のホームページもリニューアルしました。私自身も中支部の役員となりました。そして中支部創立60周年の今年、60周年記念事業の担当者の一人となり、当事業の取りまとめやこの記念誌の編集作業を行うに至った訳です。

この編集作業を通して、まだ私の知らない中支部の時間軸を知ったり、人の繋がりを知ったりする事が多少なりともできたように思います。読み返してみると、大変多くの活動が大小様々に実施されている事に気づかれます。そのエネルギッシュな姿こそが中支部だと思えます。今後もこの姿を継続するためには、中支部の皆さまのご協力が必要ですので、どんどん活動に参加していただければと思います。

そしてこれから10年後の70周年に向けて、新しい中支部の歴史を刻む一歩目をこの記念誌から始められたら嬉しく思います。

最後に原稿及び写真のご提供について、快くお引き受けいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

**(社)神奈川県建築士会
中支部創立 60 周年記念誌**

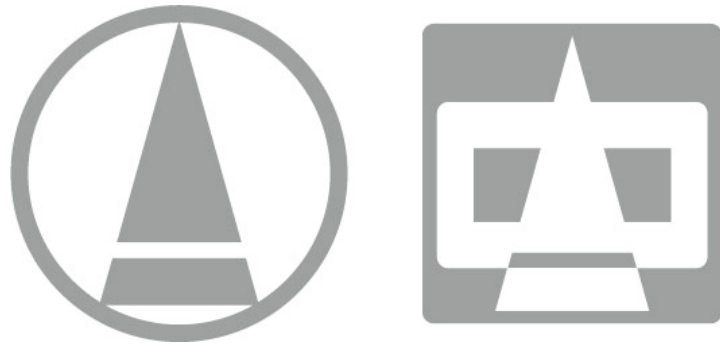
2012 年 5 月 19 日発行

発行: (社)神奈川県建築士会 中支部

編集: 金子 孝 / 田中 敦史

編集協力: 矢野 高

デザイン: 田中 敦史



(社)神奈川県建築士会

中支部 創立 60 周年記念誌